第６学年2組 体育科学習指導案

町田市立　小山小学校
2026年11月13日（金）5時間目
対象　第６学年２組３５名
指導者　教諭　横田　尚紀

1 単元名 ボール運動「バスケットボール」

2 単元の目標

〇バスケットボールの行い方を理解するとともに、基本的なボール操作やボールを持たない時の動きの技能を身に付け、簡易化されたゲームをすることができるようにする。（知識及び技能）

〇ルールを工夫したり、自己やチームの特性に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等）

〇バスケットボールに積極的に取り組み、ルールを守り、助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
（学びに向かう力,人間性等）

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①ゲームの行い方を理解している。 ②ボールの保持者からパスをもらえる位置に移動したり、得点しやすい場所に移動したりすることができる。 ③フリーの味方にボールをパスすることができる。 ④パスを受けてドリブルやシュートをすることができる。	①みんなが楽しめるようにルールの工夫を考えている。 ②自分のチームの課題を解決するために考えたことを、動作や言葉、絵図などを使って他者に伝えている。 ③自己やチームの特性に応じた作戦を選んでいる。	①ゲームや練習に進んで取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守り、友達と協力して練習やゲームをしようとしている。 ③学習の中で分担された役割を果たそうとしている。 ④ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ⑤ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。

4 単元構想

（1）児童について（児童観）

本学級の児童は、体育科の学習を楽しみにしている子が多く、積極的に体を動かそうとする姿が見られる。5年生「フラッグフットボール」においてボールを持たない動き（オフザボールの動き）については概念的に理解できている児童が多い。

一方で、運動能力やスポーツ経験の差が大きく、運動が得意な児童と苦手意識を持つ児童との二極化が見られる。また、話し合いや意見交流の場面では、仲の良い特定の友達や運動が得意な児童同士でのやり取りに偏りがちであり、学級全体で多角的に関わり合う姿勢には課題がある。

そこで本単元では、オフザボールの動きや役割（スペースへの走り込み、おとり等）を整理し、運動の得意・不得意に関わらず「自分にできる役割や強み」を自覚してゲームに生かせるようにする。さらに、特定のグループ内にとどまらず、幅広く互いの動きを見合ってアドバイスを伝え合ったり、良いプレーを認め合ったりする機会を設ける。これらの手立てを通して、誰もが役割を持って活躍し、敵・味方や得意・不得意を超えて高め合える児童の育

成を目指していく。

(2) 教材について(学習材観)

ボール運動は、ルールや作戦を工夫したり、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。本単元は、学習指導要領の内容「 E ボール運動」の「ゴール型」にあたる運動である。ゴール型のバスケットボールでは、投げる、受ける、運ぶ、手渡すといったボール操作とボール保持者からボールを受けとることのできる場所に動くなどのボールを持たない時の動きによって、攻撃側にとって易しい状況の中でチームの作戦に基づいた位置取りをするなどの攻守入り交じった簡易化されたゲームをすることがねらいとなる。 バスケットボールのゲーム中の動きの中では、「ボールを持たない動き」が大部分を占める。一方、ボール運動が苦手な児童は、ボール操作が上手くいかないということと同時に、「どこに動けばいいか分からない」ということが挙げられる。そこでボール操作の技術を学習すると共に、ボールを持たない時に、どこに動けば良いのかを理解し動けるようになれば、有効なパスが出現するようになり、ゲーム全体の質も向上し、誰もが楽しくバスケットボールを楽しめると考える。

(3) 単元について(単元観)

学習活動の始めに、シュートやパス、ピボットの練習をすることでボール操作の技能を高めていく。タスクゲームやメインゲームではボールを持たない時の動きを身に付けるために、フィールド上の ゲーム人数を3人以下にしたり、ドリブル無しのゲームを行ったりすることで、児童がどこに動けばいいのかを判断できるようにしていきたい。誰もが運動の仕方を理解し、誰もができるようにするために、一人一人の運動量を確保したり、分かりやすい説明や分かりやすい動き方を意識して進めていきたい。 バスケットボールの学習を通して、「分かった」から「できた」へとつなげていくことで運動への学習意欲を持たせるとともに、ルールを守り助け合って運動し、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたりする人間性を身に付けさせることで、チーム競技の楽しさを味わわせたいと考える。

5 研究主題に迫るための手だて

【自己理解】

①一人一人の良さや貢献度を把握する工夫

・審判(観察)チームがパスやシュートの回数といった具体的なプレー内容を記録・集計してチームの特徴や個人の貢献度を客観的に可視化し、その結果をもとに自分やチームの強みや役割を正しく自覚しながら、次のゲームに向けた作戦や役割分担の改善に生かす。

【他者受容】

①相互の学びを高める多角的な振り返りの工夫

・ゲーム後に対戦チーム同士で振り返りを行い、相手視点からのフィードバックを素直に受け入れる時間を設定する。自分たちでは気づけなかった強みや良いプレーを再発見することで、今後の作戦立案や課題解決につなげる。

6 単元の指導と評価の計画 (全6時間扱い)

段階	時	学習活動	指導上の留意点	・評価規準 〇方法
知る	1	・学習の進め方やルールを確認し、試しのゲーム①②を行う。 ・ゲームを通して自分やチームの課題(「パスがつながらない」「シュートにいけない」等)を見つける。	・ゴール型のルールやゲームの行い方を理解できるようにする。 ・審判(観察)チームによる記録の取り方(パス数・シュート数等)を提示する。	・ゲームの行い方を理解している。 〇発言・カード ・ゲームや練習に進んで取り組もうとしている。 〇観察

高める	2	・課題（「どこに動けばよいか」「パスの出しどころ」等）を整理し、解決に向けた練習（パス&ラン、スペースへの移動等）や試しのゲームを行う。	・ボールを持たない時の動き（オフザボール、おとり等）のポイントを整理し、課題に応じた練習を選択できるようにする。	・みんなが楽しめるルールの工夫や課題解決の方法を考えている。 〇発言・カード ・パスをもらえる位置に移動している。 〇観察
高める	3 本時	・課題に応じた作戦を意識してゲーム①を行う。 ・確認および対戦チームとの交流対話を行い、試しタイムを経てゲーム②を行う。	・観察チームの記録（パス数・シュート数等）から、チームや個人の貢献度をデータで可視化する。 ・対戦チームとの振り返りで相手から見えた強みやアドバイスを聞き取り、作戦に生かす。	・自己やチームの特性に応じた作戦を選んでいる。 〇観察・カード ・仲間の考えや取組を認めようとしている。 〇観察・カード
高める	4	・可視化された記録や自身の強み（パス出し、おとり、リバウンド等）を基に、チーム内の役割分担や作戦をより具体的に工夫してゲームを行う。	・運動が得意な児童も苦手な児童もそれぞれの役割を発揮できるようチーム内の合意形成を促す。	・チームの課題解決のために考えたことを、動作や言葉、絵図等で他者に伝えている。 〇観察・カード ・分担された役割を果たそうとしている。 〇観察
深める	5	・作戦を意識してゲームを行い、敵・味方に関わらず互いの動きの良さや高度な連携プレーを認め合い、アドバイスを交換する	・学級全体で運動に親しめるよう、良い声掛けや相手チームの良いプレーを具体的に承認・価値付けする。	・フリーの味方にパスを出したり、パスを受けてシュートしたりしている。 〇観察 ・仲間と協力し、互いの取組を認め合おうとしている。 〇観察・カード
深める	6	・総当たり戦（バスケットボール大会を行い、単元全体での技能の高まりや役割の果たし方を振り返る。	・勝敗を受け入れつつ、互いの成長や貢献を認め合えるよう全体共有を行う。	・ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 〇観察 ・ゲームの行い方や自身の伸びを理解している。 〇カード・発言

7 本時の学習（3／6時間）

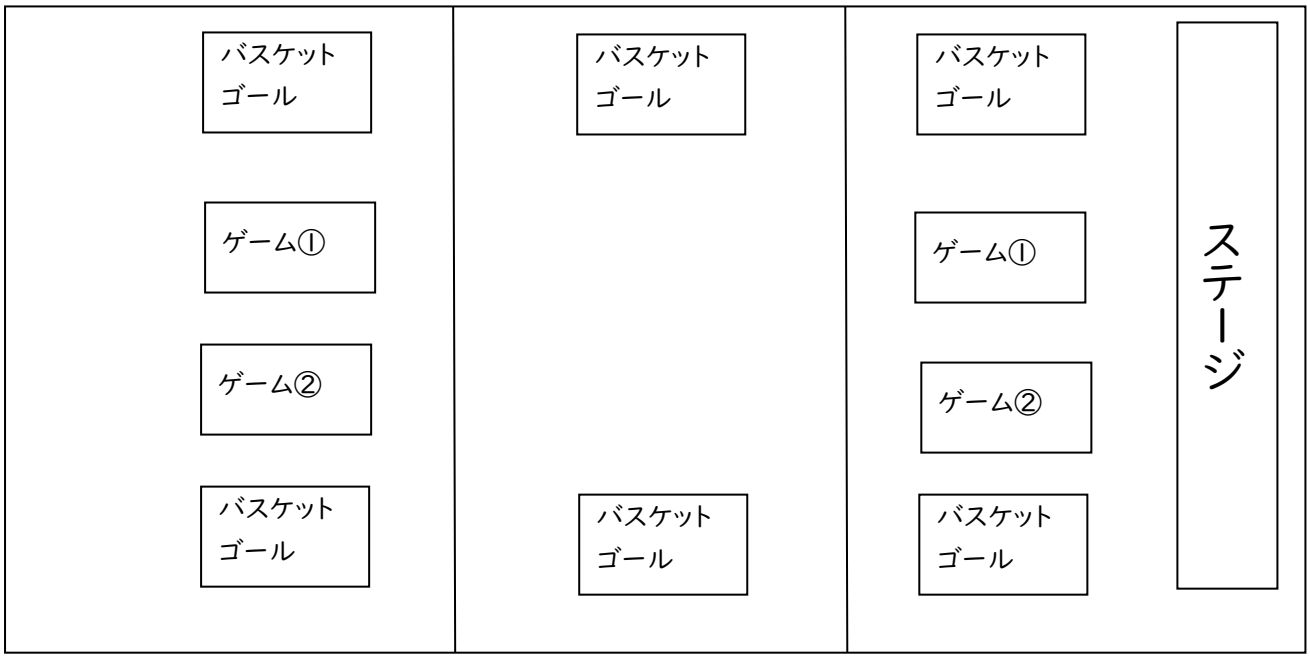
（1）本時のねらい

・観察記録データやチームの課題に応じて、全員が役割を持てる作戦や動き方を選び、表現することができる。

（2）展開

	学習活動	・指導上の留意点 ○評価(評価方法)
導入	1 集合・整列・挨拶・健康観察 2 本時のめあての確認	・前時の課題（パス回数やシュート試行数）を全体で再確認する。
	「記録や相手チームからのアドバイスを生かし、チームの作戦や役割を工夫してゲームをしよう」	
	3 前時の振り返り共有 4 準備運動・ゲームにつながる運動	・安全配慮を行いつつ、ボールを持たない動き（オフザボール）を意識したウォーミングアップを行うようにする。
展開	5 ゲーム①（7分） ・前時までの作戦を意識してゲームを行う。 ・審判（観察）チームはパス成功数・シュート試行数等を記録する。	・観察チームの記録がスムーズに行われているか巡回指導する。 ・運動が得意な児童も苦手な児童も、それぞれの役割（オフザボールの動き等）を持って関われているか観察・価値付けする。
	6 振り返り①・交流対話・試しタイム（10 分） 自 ・データと助言を基にチームで作戦や役割（おとり、パス供給、シュート等）を調整し、試しタイム（2分）で動きを確認する。	自己理解① 観察チームの記録データを確認し、誰がどのようなプレーでチームに貢献しているかを客観的に可視化・自覚できるようにする。
	7 ゲーム②（7分） ・調整した作戦や各自の役割を意識してゲームを行う。	
	8 振り返り②（5分） 他 ・作戦の成果や、相手チームからのアドバイスがどのように生かされたかを振り返る。	他者受容① 対戦チーム同士で振り返り（交流対話）を行うことで、「相手から見えた自分たちの強みや改善点」を聞き取り受容できるようにする。 ○自己やチームの特性に応じた作戦を選んでいる。（観察・カード） ○仲間の考えや取組を認めようとしている。（観察・カード）
終末	9 用具の片付け 10 学習カードに振り返りを記入 11 本時の学びの共有・次時の予告・挨拶	・安全に気を配って片付けを行うようにする。 ・学習カードには「自分の役割で貢献できたこと（自己理解）」と「相手チームからもらった言葉（他者受容）」を書くよう促す。

（3）場の設定



（4）板書計画（ホワイトボード）

㋮記録や相手チームからのアドバイスを生かし、チームの作戦や役割を工夫してゲームをしよう

学習の流れ
①集合・整列・挨拶
②準備運動
③ゲーム①
④シェアリング①
⑤ゲーム②
⑥シェアリング②
⑦片付け
⑧振り返り
⑨挨拶

対戦表

バスケットボールの役割
・シュート
・パス
・リバウンド
・おとり
・オフザボールの動き
・(ドリブル)など